

## 自己評価報告書

平成23年4月28日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008年度～2011年度

課題番号：20530862

研究課題名（和文）

ホリスティック教育学の観点による日本のシュタイナー学校の実践事例に関する研究

研究課題名（英文）

A Case Study on Waldorf Education in Japan from the Viewpoint of Holistic Education

研究代表者

吉田 敦彦 (YOSHIDA ATSUHIKO)

大阪府立大学・人間社会学部・教授

研究者番号：20210677

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：ホリスティック教育、シュタイナー学校、総合学習、道徳教育、生きる力、持続発展教育、ユネスコスクール

## 1. 研究計画の概要

本研究は、日本のシュタイナー学校の現地調査によって範例的な実践事例を収集・記録し、公教育学校で全人的・総合的な教育（ホリスティック教育）を促進する観点から、その事例のもつ意義を明らかにするものである。

本研究の4年の期間における研究を、次のように計画する。

- (1) 基礎的文献研究によってシュタイナー学校の教育原理と公教育学校の教育課程編成の方針（「中央教育審議会答申」「学習指導要領」等の記載事項）との接合関係を明らかにする。（主に第1年次）
- (2) 総合的学習、道徳教育および特別活動の三つの領域に焦点を当てて、実際に日本のシュタイナー学校ですでに取り組みされた具体的な実践事例を収集・記録する。  
（第1年次：研究組織形成・予備調査、第2-3年次：本調査）
- (3) 当該領域に関わる教育課程編成方針と照らしあせつつ、シュタイナー学校の実践事例のもつ特質を考察し、ホリスティック教育学の観点からその意義を解明する。  
（第3-4年次）

## 2. 研究の進捗状況

- (1) シュタイナー教育の理論面については、数名の連携研究者の参加のもと、継続的にホリスティック教育学に基づく研究会を開催し、その児童発達理論やカリキュラム論に関する基礎的知見を蓄積した。

他方、中央教育審議会（教育課程部会）答申や学習指導要領改訂の方針などを精査し、公教育セクターでの教育改革方針とシュタイナー教育との接合面を検証した。さらに、学校法人の認可を得た神奈川県藤野町のシュタイナー学園等より学校設置認可の資料を入手して、教科や授業時数の換算方法など具体的な照合を行った。

- (2) 日本各地のシュタイナー学校における実践事例を収集するために、8月中旬の時期に全国から実践者が集う合宿研修会で実践交流や情報交換を行った（1, 2, 3、年次継続）。また、近年に学校として軌道に乗り出した6校を中心とするネットワーク組織も形成され、研究面でそれに協力する協働関係も確立した。加えて、京田辺シュタイナー学校には高等部での集中エポック授業や卒業プロジェクト指導評価、卒業演劇や季節行事等の特別活動への参加、月2回程度の運営ミーティング参加などアクションリサーチを継続した。藤野シュタイナー学園高等部でも、参与観察を継続している。
- (3) 以上のフィールドワークで収集した事例について、「生きる力」や「総合的学習」といった教育課程の中心概念との関連において、さらには「持続可能な開発のための教育（持続発展教育：ESD）」やユネスコの教育理念との関連において、その意義の考察を行った。

## 3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している。

(理由)

- (1) 基礎理論研究においては、「生きる力」という学力観について、「習得」「活用」「探求」という段階説に見合ったシュタイナー教育の教育課程論や、「個性尊重」と言われるときの「個性」概念の捉え直し、あるいは「ゆとり」か「詰め込み」かの二者択一ではない「自ら学ぶ力を引き出す指導」についての研究を蓄積することができた。この共同研究の成果として、公教育界に対してシュタイナー教育研究のもつ公共的意義について、また「ホリスティックな生きる力」について、論文、学会発表、図書等ですでにその一部を公表している。
- (2) 実践事例の収集については、日本各地の6校との緊密な研究協力体制が確立し、とくにそのうち最大規模の2校においては、授業参加等のアクションリサーチを含め、継続的な参与観察と事例収集を達成できた。これらの多様な実践事例を、整理された記録として公表するには至っていないが、「持続発展教育」などユネスコの教育理念と関わる部分は、各校との連携の元にユネスコ・プロジェクト校の実践記録の形で発信した。
- (3) 事例の考察については、昨年度まで、国連ESD10年(2005-2014年)の重要性に鑑み、今次の学習指導要領改訂でも導入された「持続発展教育」との関連に集中して検証してきた。演劇教育やプロジェクト学習など、さらに総合的な意義の研究は、最終年度で行う。

#### 4. 今後の研究の推進方策

- (1) 参与観察で収集した日本のシュタイナー学校の事例について、その総合的な考察を含めた研究をまとめあげ、「日本のシュタイナー学校の到達点：パブリック・セクターとの接面を中心に」というタイトルで11年6月(東京学芸大学)開催のホリスティック教育研究大会で発表して研究討議する。それを踏まえて、本年度中を目処に報告書を刊行する予定である。
- (2) 日本各地のシュタイナー学校でのアクションリサーチや参与観察は、この3年間の成果である研究協力体制を維持し、本年度以降も引き続き継続する。とりわけ、その成果として京田辺シュタイナー学校に続き、東京と横浜のシュタイナー学校も今年1月にユネスコ(プロジェクト)スクールに認定されたところであり、今後の展開が期待されている公教育セクターのユネスコスクールと連携は重要な実

践的研究の課題として浮上している。

- (3) 本研究の期間中に公表された欧米でのシュタイナー学校卒業生を対象とした調査結果は、日本のシュタイナー学校の教育成果を検証していくためにも参照すべきものである。その翻訳紹介の作業は着手しているが、今後、それを参照して日本版の卒業生調査を実施するための準備を整えていく。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

- ① 今井重孝、三つのシュタイナー学校卒業生調査の主要結果について、教育人間科学部紀要(青山学院大学)、第1巻、53-68頁、2010、査読無
- ② 吉田敦彦、NP0立のシュタイナー学校づくりは競争社会への対抗的オルタナティブたりえるか、教育新世界(世界新教育学会紀要)、第57巻、67-77頁、2009、査読有
- ③ 吉田敦彦、井藤元、水田真由、河野桃子、瀬藤好子、シュタイナー教育を思想史的に研究するということ、近代教育フォーラム、第18号、215-227頁、2009、査読有

[学会発表](計5件)

- ① 吉田敦彦、ユネスコ「ESD」とシュタイナー学校の実践一ひとつのホリスティック・アプローチ、ESD推進フォーラム(文部科学省：日本ユネスコパートナーシップ事業)、2010年12月18日、玉川大学
- ② 吉田敦彦、ユネスコ・スクールとシュタイナー教育—京田辺シュタイナー学校の事例から、日本国際理解教育学会、2009年6月12日、同志社女子大学

[図書](計1件)

- ① 今井重孝、金田卓也ほか編、西平直、吉田敦彦、中川吉晴、西村拓生ほか著、ホリスティック教育ライブラリー⑩ホリスティックに生きる、せせらぎ出版、2011、総187頁